老いるとはどうい うことか (20251011) 心身の衰え→とまど い→周りの人々や環 境との齟齬 扱い

春夏秋冬の実りの 秋→充実感はあるが 身体にガタ

小さなケガはする が大きなケガはし なくなっている

防御本能大、若い い人が配慮してく れる

考え方により生き やすくできる

年齢に応じ身体の 衰え

年寄り扱い→老人に 「なる | →心が

世話になった叔母 が脳梗塞で施設に

前向きだった人が 早く逝きたいとい う→認知症も併せ

心の方は元気でや る気満々

生命としての老い→ 老化細胞→分裂を止 める→身体の衰え→

心の変化衰え

生きたいと思って いるのに死ぬのは つらいものがある

世間での役割のよ うな期待されるも の→年寄り、年寄り それとは違う、自 由なとらわれない 心→好奇心を失わな L

老人会→さそわれて も行きたいと思わ ない

さりとて若い人だ けの中には入れな

周りの人がいなく なっていく(同世 代)

興味を持てること がなくなっていく

余力(未練)を残 して死にたい

肥やしになりたい

生あるものは必ず 滅びる

これからは長生き が問題

男の老いと女の老 いは違う?

高齢者は「死にた い」と訴える

本当に死にたいと は思っていない

むしろ生きたいと 思っている

治療がうまくいっ

たら生きたい

安楽死→長く生きる ことへの不安→QOL と身体の苦痛との せめぎ合い→バラン スをどうとるか

死ねない苦しみ→思 うようにできない

施設に入る→料金が 高い→家族に迷惑→ 早く出してくれ→死 にたい

自分が無力な存在、 世話だけされる→生 きている意味があ るのか

尊厳をどう確保す るか→心

何かの役に立つと いう社会的役割

自分がこれをした いという選択がで きる

散歩ができるとい うような

人間の執着、欲望 こそ生きること

生きる目的は必要

一時的に施設に預 けたら急にボケが 進んでしまった→全 く受身

どう思われている か、見られている か

気持は若いが身体 が動かない 老化は劣化か?→熟 成

老いは救いである→ つらいことの方が 多いが忘れていく→ 昇華される 幽玄→『花伝書』肉 体的に衰えても名 人の芸の美しさ

生きることになげ やりな若者が目立 つ 人それぞれが生き ることで出てくる 風味がある

世代間の見方はい ろいろ

何故年寄りはきら われるか 現役のころの感覚 を引きずって生き ている→今でなく過 去に生きている

長くなる老後をど う生きるか

年齢を感じたとき から老いは始まる 自然に向き合い付 き合って(自分も 自然の一部)

老いるという感覚 を持つのは人間だ け→死を意識するか ら

言葉により人間的 意味が生成→意味づ けという病→生きる 苦しみ 身体との矛盾は自 分で工夫→楽しむこ とを自分で見出し ていく

達成可能な目標を 失わないこと

やりがい、生きが い

此の秋は何で年よ る雲に鳥(芭蕉) 残された日々を楽 しむ

老いては振り返り たくない→先を見る

旅に病んで夢は枯れ野をかけ廻る (芭蕉) 身体は人それぞれ→ 実りの秋を楽しむ

あるがままを受け 入れる

辛酸に満ちたこの 世を死してなお見 届ける→いかなる場 合にも平気で生き ている遊び心